

金融経済環境

当中間期の我が国経済は、持ち直しの動きがあったものの、急速な円高や世界経済の減速により、輸出や生産が鈍化し、後半は足踏み感が見られ始めました。

当行が主要な営業基盤としている北部九州においては、生産活動や個人消費に持ち直しの動きが見られるものの、海外経済の動向や円高への警戒感が強まってまいりました。

他方、金融業界では、資金需要が低迷し、また資金運用利回りが低下する中で、金融機関相互の競争はますます激しいものとなっております。

平成22年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役職員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めてまいりました。平成22年度中間期の業績は次のとおりです。

◆預金、貸出金等

当行単体の財政状況につきまして、平成22年9月末の総預金残高は、前期末比411億円減少、前中間期末比では267億円増加の1兆7,963億円、預金以外の個人預かり金融資産残高は前期末比86億円増加、前中間期末比では190億円増加の2,398億円となりました。

平成22年9月末の総貸出金残高は、資金需要が低迷する中で、前期末比189億円減少、前中間期末比では41億円増加の1兆1,994億円となりました。

有価証券につきましては、平成22年9月末残高は前期末比では339億円減少、前中間期末比では106億円減少し、5,360億円となりました。

◆収益状況

当行単体の業績は、経常収益で前中間期比7億38百万円減少の208億74百万円となりましたが、足元の国内景気に持ち直しの動きが見られる中、取引先への経営支援の取組み強化等により与信関係費用が減少し、経常利益は前中間期比13億63百万円増加の48億85百万円となりました。一方、中間純利益は固定資産の減損損失等が発生したことにより前中間期比68百万円減少の20億74百万円となりました。

◆当行グループの業績

当行および連結子会社の業績は、連結経常収益で前中間期比7億29百万円減少の212億38百万円、連結経常利益で前中間期比15億63百万円増加の51億58百万円、連結中間純利益で前中間期比69百万円減少の20億93百万円を計上いたしました。

当行および連結子会社の財政状態につきましては、平成22年9月末の総預金残高は前期末比413億円減少の1兆7,904億円となり、総貸出金残高は前期末比189億円減少の1兆1,994億円となりました。また、平成22年9月末の連結自己資本比率（国内基準）は、11.94%となりました。